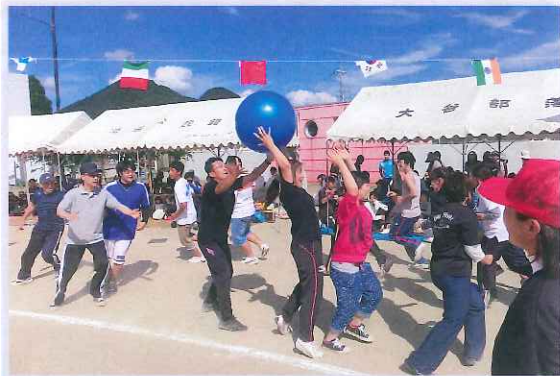


地区運動会

体力作り頑張っているあなたに金メダル!

すがすがしい秋晴れの中、9月21日(日)に久下地区運動会が盛大に開催されました。午前中の「小学校運動会」では子ども達がいきいきと駆け巡り、午後からは老若男女が一堂に会し、ふれあい深まる「地区運動会」となりました。自治会男子選手による「330歳リレー」では例年より転倒者が続出する中、大きな声援が沸きあがりフィナーレを飾りました。



久下自治振興会

第26号

2014年10月

「うさぎと亀
どっちが有利!」



「今日も笑顔、
明日も笑顔で」



■ 椿野榮会長(地区老人クラブ連合会)
メンバーが楽しそうに演技していました、地域のみなさんに元気な姿を見てもらったのが何より良かったです。



7月24日(木)小学生の5,6年生有志が楽しいゲームコーナーなどを自ら企画。またポップコーン、かき氷等の屋台を地域の住民が出店し、お互いに交流を深め充実した自治会館でのひと時でした。

春風学園 夏まつり



主な事業 (7~9月)

平成丹波塾くげ 7月24日(木)~8月28日(木) 5回開催

指導者: 9名 参加者: 43名 (4~6年生)

内容: 夏休みの宿題、指導者学習(ボランティア活動・地域の歴史・習字) 環境講座「手づくり教室」

9月28日(月) ~ 猫 ~ 参加者: 21名

構成団体の紹介

ふるさと丹波笛路村

谷川十一区の笛路（旧地名）で都市部に暮らす人々との交流事業を行う「ふるさと丹波笛路村」（廣瀬益則代表）が今年で10年を迎えた。9月7日、主に阪神間から来村された33名の会員は、爽やかな快晴の下に広がる棚田で、汗を流すなど住民と一緒に晩夏を満喫されました。



平成17年に「田園自然環境保全事業」の助成を受けたのをきっかけに土地改良管理組合を立ち上げて地域内の農道の舗装整備と鹿柵の改良補強を行う一方、都市部から農業ボランティアを受け入れ交流をはかる事業をスタートさせた。山に遊歩道を整備しながら椎茸栽培する「里山部会」、玉ねぎ、さつまいもなど春夏野菜約10種やヤーコン、きくいもを栽培する「野菜部会」と「黒豆部会」の3部会を、募集したボランティアと一緒に運営。また住民で構成する「女性部会」が農作物の加工を担当しながら村で栽培した採りたて野菜中心の食事で会員をもてなす。



四方山で囲まれたきれいな棚田での作業や住民の手厚い歓迎のうわさが口コミで広がり、今では神戸阪神地域を中心に53名にまで増えた。春秋に行う2代収穫祭を含め年10回の交流事業は30名から多い時で50名が参加するという。



黒枝豆農場の草刈作業

こだわりのヤーコン焼酎と黒豆ヤーコン茶を独自開発

「ヤーコンに含まれるブドウのような緑っぽい爽やかな香り！を活かした焼酎は他に例をみない。オンリーワンになれば勝機がみえる。」試作前から「焼酎は香りが大事だ！」が持論の田中事務局長と「いや、味が最も重要だ」とする杜氏は真つ向から対立。いてもたってもいられない思いで廣瀬代表と田中事務局長は島根の益田市にある酒蔵まで片道四時間半かけて軽トラを走らせた。そこで酒蔵の杜氏と徹底的に話し合い「この香りが残らない商品は引き取らない」とまで言い切った。正直売れるか半信半疑で昨年試作した300本はあっという間に完売。これはいけると確信した二年目の今年、満を持して1000本を発売した。ヤーコンについた泥は試作当初から丁寧に手洗いしてから酒蔵に納品すると香りには徹底してこだわるとの他「黒豆ヤーコン茶」も販売する。



増え続ける11区空き家（現在28戸ある住居）に危機感

若者を中心にアイターン者を積極的に受け入れるなど数年前から空き家対策にも取り組む。「この事業で住民同士の親睦が深まり、さらに農産物加工品が売れて地域が潤えば未来への活力に繋がりが集まる。」と廣瀬代表は意気込む。丹波市内にある25小学校区で最も急速化する人口減少に悩む「久下地域」。その現状は深刻だ。わが自治振興会の構成団体でもある「笛路村」の事業を地域づくりのモデルケースとして見習い切磋琢磨していきたい。